

6 林 業

項 目	作 業 内 容
シイタケ栽培について	(今月の作業のポイント) ・ 新たなホダ木を作るための作業

項 目	作 業 内 容
	エ 伐採の時、すでに害菌や穿孔虫などの侵入を受けている元玉などの被害部は取り除く。  写真1 原木の伐採の状況  写真2 葉枯らしの状況
(3) ホダ場選定	ホダ場の温度条件と使用品種が合っていないと品種の特性が発揮しにくい。特に、低温系品種はこの傾向が強いので、なるべく南から東南向きの日当たりが良く、昼夜の温度較差が大きい場所をホダ場に選定する。
(4) ホダ起こし	シイタケ菌糸が十分にまん延したホダ木を、シイタケの発生環境に適した林内のホダ場に移し、シイタケが変形せずに生長し採取しやすいようにホダ木を組み変えることを「ホダ起こし」という。ホダ起こしは最低気温が数日間にわたり、使用品種のきのこ発生に必要な温度以下になってから実施する。 ホダ起こし時の注意事項は次のとおり。 ア シイタケ菌糸のまん延したホダ木は、原木にくらべて樹皮が傷付き易くなっている。このため、作業時に樹皮部が損傷すると、損傷部やその周辺部が乾燥してシイタケ菌が衰弱・死滅し、その部分から害菌のトリコデルマなどが侵入し大き

項 目	作 業 内 容
	な被害を受けることがあるので、取扱いに注意する。 イ 作業中、ホダ木に直射日光が当たると高温障害を起こし、シイタケ菌糸は衰弱して害菌の侵入を受け易くなるので、特に裸地伏せ地での作業は笠木を一度に取り除かないなど、直射日光が当たらないよう注意する。 ウ ホダ木を、ホダ場まで運び一箇所に積んだまましばらく置く場合が多いが、その間は直射日光が当たらないようホダ木を保護する。 エ ホダ木の組み方は、ヨロイ、ムカデ、合掌等の方法があるが、一般には合掌がシイタケを採取しやすい（図 - 1）。 オ ホダ木は、品種別、太さ別、樹種別に組んでおくと、発生操作、採取・選別などに都合が良い。 図 - 1 合掌型模式図 (熊本県林業研究・研修センターHP より引用)

(作成 林業研究センター)